

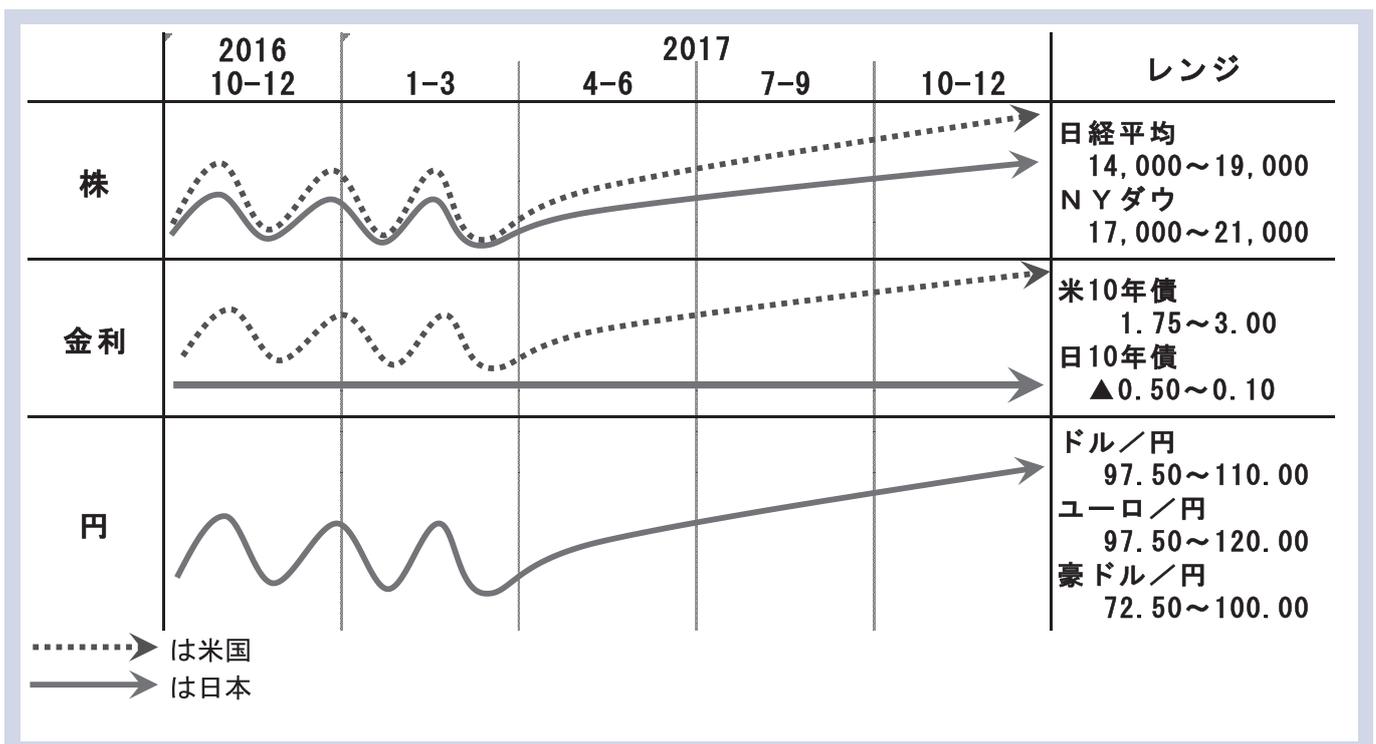
# 各国経済の6ヶ月見通しと向こう1年間の市場予想

(11月10日時点)

## I. 各国経済の6ヶ月見通し

	コメント
① 日本	景気は16年いっぱい踊り場状態が続くだろう。個人消費が停滞から脱する兆しが見えないなか、円高による企業収益下押しや先行き不透明感の強まりから設備投資も抑制姿勢が続くとみられる。景気持ち直しは、経済対策効果が発現する17年以降となる。
② 米国	米国経済は、ドル高、世界経済減速等の影響を受けるものの、雇用・所得の増加、資産残高の増加、借り入れ環境の改善等を背景とした個人消費の拡大や住宅市場の回復の持続によって、景気拡大が継続する公算が大きい。17年に誕生するトランプ政権は、過半数を握る議会共和党と協力し、経済成長を加速させる政策を実現するとみられ、景気楽観論の強まりを受けた需要押し上げ効果も期待できよう。
③ 欧州	ユーロ圏経済は、①金融緩和の効果浸透、②雇用・所得環境の持ち直し、③過度な財政緊縮姿勢の後退を背景に、今後も回復基調が続くだろう。ただし、英国国民投票後のポンド安進行で英国向け輸出が減速することや、原油価格の底入れで家計の実質所得が目減りすることから、緩やかな成長ペースにとどまる公算が大きい。
④ アジア・新興国	アジア経済・新興国では、世界景気が安定を取り戻すなかで外需の底打ちを示唆する動きもみられる。また、国際金融市場の安定を受けて資金流入が回帰しており、景気を下支えする動きもみられる。先行きについては引き続き外部環境に揺さぶられやすい環境は続くものの、金融市場の安定が続けば比較的堅調な景気が続くと思込まれる。

## II. 向こう1年間の市場予想イメージとレンジ



(注)記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。